

彼岸だより



東澤山 菜流寺
 住職 武山清堂
 〒 421-2102 静岡市葵区油島 122
 電話 054-294-1215
 (電話は秘在寺へ転送されます)

◆お彼岸

三月二十一日は春分の日です。春分と秋分の日には太陽が真東から上り真西に沈み、昼夜の長さが同じになります。西の彼方には西方極楽浄土が、東には東方瑠璃光浄土があります。

昔から「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、お彼岸は大変過ごしやすい時期なので、この期間を仏教徒の修行の期間と決めました。お仏壇を清めお墓を清掃しお寺にお参りして心を清める、大切な一週間です。

この彼岸は「今・ここ・わたし」を「当所即ち蓮華国」と理解し体感できる波羅蜜多(到彼岸)の教えを学ぶ期間なのです。

◆春彼岸法話の会

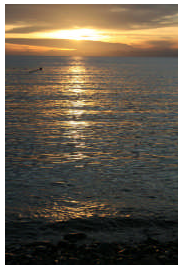
三月二十日(木) 午後一時

講師は愛媛県西予市

三寶寺住職 福山宗徳師

テーマ 「おかげさま」

檀家でない方も参加できます。ご近所お誘いあわせてご来山下さい。



◆新年会



一月二十六日午後二時から、本堂で新年会を開きました。参加者は二十四名で、評議委員長、篠崎廣志氏挨拶の後、住職の尺八、寺庭の御詠歌「延命地藏御和讃」「西国札打ち御和讃」を聴いていただきました。じゃんけんゲームで景品を手にして盛り上がり、和やかな雰囲気うちに終わりました。



◆カーテン

本堂と南側の部屋のカーテンを新調しました。明るい感じになったと思いますが、いかがでしょうか？お寺にいらしたとき、注意して見て下さい。台所回りのレースのカーテンは、外して洗いました。



この額は本堂右側の控えの間に掲げてある、先々住職梅原諦愚和尚様の書です。「みしょう」と読み、出典はお釈迦様と摩訶迦葉(まかかしょう)尊者の『拈華微笑(ねんげみしょう)』。「華をひねってほほえむ」の因縁からの言葉です。お互い日々の生活の中で「ほほえみ」をもつて、「笑顔で」日暮らしが出来たらいいですね。

◆涅槃図（ねはんず）



お釈迦様は今からおよそ二千五百年前の二月十五日に、インドのクシナガラと
言うところで八十歳の生涯を終えました。
この命日を涅槃会といい、涅槃図の軸を
掛けてお祀りします。秘在寺の涅槃図に
も多くの菩薩や弟子、善男善女、動物な
どが泣き悲しんでいる姿が描かれていま
す。

お釈迦様の亡くなる際に、お釈迦様の
侍者をし多聞第一と言われた阿難尊者（あ
なんそんじや）がお釈迦様に「私はあな
たを頼りにこの二十五年間を生きてきま
した。もし頼りとするあなたに亡くなら
れたら、これからは誰を頼りに生きてい
たら、これからは誰を頼りに生きてい
たら良いのでしょうか。」という質問

問しました。お釈迦様は「弟子たちよ、
おまえたちはおのおの自らを灯火（とも
しび）とし、自らをよりどころとせよ、
他を頼りとしてはならない、この法（お
しえ）を灯火とし、よりどころとせよ、
他の教えをよりどころとしてはならな
い。」こうお答えになられたそうです。

お釈迦様の教えを「法」教えを文字に
した物が「お経」です。「経」には「縦糸」
という意味があります。縦糸がしつかり
していれば、横糸がどんなであろうとき
ちんと織り上げることが出来ます。
私たちが毎日生きていくためには指
針となる縦糸がどうしても必要です。こ
れが「お釈迦様の教え」法であり、お
経なのです。



◆写経

インドのクシナガラには
涅槃堂があり、中に安置
された涅槃像は全長 6m
以上もある巨大なもので
5世紀頃の作と推定され
ます。

第一回を二月十二日に行いました。本
堂で「般若心経」を読んだあと、テキス
トに書き込みました。何度も書くので、
結局この日は、タイトルの「佛説摩訶
般若波羅蜜多心経」だけで終わりました。
写経用紙をなぞるのもいいですが、この
ように一字一字お手本を見ながら、

◆全福寺にて

いに書くのは楽しいです。心なしか、一
回やっただけで、普段書く字が、いね
になっただけで、気がします。途中から
も参加できますので、どうぞ。
住職が読経の指導と、般若心経の解説
をする予定ですが、この日は住職も
副住職も住職研修で留守でした。

一月八日、御詠歌会員の新年会として
全福寺で精進料理をいただきました。御
詠歌会員だけでは七名と少なかった。御
ので、お誘いしたところお茶の会員と野
田平婦人会の皆さんが参加して下さい、
総勢十八人となりました。柿なますやキ
ンカンの蜜煮の作り方を教わり、猫ちゃ
んに送られて全福寺をあとにしました。
猫ちゃん、お殿様のコスプレでした。ポ
ーズをとっていました。



◆お菓子教室

季節に
因んで



うぐいす餅・白梅



さくら・黒糖・酒・しょうゆまんじゅう